

# 1. アメリカの現場で求められる英語レベル

*The most important thing in communication is hearing what isn't said.*

— Peter F. Drucker (1909~2005年)

コミュニケーションで最も重要なことは、言葉にされないことに耳を傾けることだ。

## 本音トーク 1 英会話で求められるのは正しい文法や発音ではない！ スムーズで血の通ったコミュニケーションが一番大事

アメリカの臨床現場で要求される英語の能力は、日本の高校や大学で学んできた基本的な英語のスキルとは大きく異なります。

日本での英語教育の特徴から、ついつい文法を意識しがちです。私も働き始めた頃は文法が気になって間違えるとわざわざ言い直したりしていました。また、自分の発音が正しいか、なまっちはいけないかと不安になり、発言が億劫になることもありました。しかし、実際に働いてみるとわかりますが、さすがは移民の国アメリカ、まわりの人も多かれ少なかれ何かしらのなまりがあるのです。いわゆる「きれいな発音」をする人のほうがむしろ少なく、文法がそこそこでも普通に会話していることがすぐにわかります。よく考えれば、われわれ日本人も日本語の文法などあまり意識せず、文法の崩れた文章で普段会話をしていますよね。そう、現場で求められるのは、正しい文法やきれいな発音では決してなく、

### いかにスムーズに気持ちよくコミュニケーションが取れるかどうか

その力なのです。究極をいえば、われわれが医療を行う上で最も大切なのはハートであり、非言語的なコミュニケーションで大部分が伝わります。なので、尻込みをせず、熱いハートで患者や同僚と接することがどの国にいても大切なのです。

ここからは、いくつかの場面に分けて解説していきます。

## 本音トーク 2 「型」を覚えて乗り越える回診・カンファレンス・ コンサルテーション

同僚とのコミュニケーションでは、基本的に英会話学校などで学ぶことのできる、日常会話の能力が重要です。

### あめいろくよく使われる英会話 日常会話の1例

How's it going ?

I'm pretty good. How about you ?

こんなさりげない会話や雑談が同僚との距離を縮め、日頃の仕事をよりスムーズにしてくれます。日本では、職場での雑談はときによくないことのように思われるシーンもあるかもしれませんが、アメリカでは、基本的にこのような **small talks** をすることが潤滑剤になります。上司などとも気軽に雑談を交わすことのできるコミュニケーション能力が必要なのです。

### 1. 回診・カンファレンスには「型」が使える

回診やカンファレンスでのプレゼンテーションは、型を覚えてしまえば、ある程度簡単にできるようになります。英語自体のレベルというよりは型に慣れているかどうか、のほうが問題になりますので、勉強熱心な方にとっては、日常会話よりも早く習得できる能力かもしれません。ただし、カンファレンスでのフォーマルなプレゼンテーション、回診での新入院患者のプレゼンテーション、前日からすでに入院している既知の患者のプレゼンテーションでは、それぞれ求められる詳細さが異なります。このあたりを柔軟にするには少しスキルや慣れが必要で